

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヨシア(野の花)		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 18日		～
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性や特徴を職員が理解し、適切な関わりを心がけています。クラス会議やSV、そのほか日々の職員間で子どもの様子を共有しています。	会議等で子供たちの特性を話していきながらも前向きにかつ、専門的に話し合いながら行っています。グループSVで話し合いを話をしてどのように子どもたちの関わりをしていくかを確認しました。	職員との情報共有をしていながらチームで連携をしていきます。
2	職員が、より良く子どもたちと関わって支援し、専門性を高めることができるように、職員の年代や職種に合わせた専門研修があります。	子ども達が学校の悩みや家庭での困り感を話せるように個別で話を聞く機会を設けたり、グループで子ども同士お互いにお話ができる活動も取り入れたりしています。	研修や勉強会を通して、職員の支援スキルや知識の向上を目指す。
3	家族支援を重要な支援として法人全体で取り組んでいます。毎月の事業所内相談支援での面談に加え、個別カウンセリング、グループカウンセリング、自助会、親子発達等家族の困り感に寄り添って支援を行っています。	面談や電話、メールなどで相談を受けたことをすぐに各、関係機関に繋げて連携し、支援に繋がっています。保護者が気楽に話せる関係作りが出来る様に、日頃から声かけ、挨拶や連絡、家庭訪問や面談を行っています。	これからも保護者に寄り添って困り感には適切な関わりを保持するようにチームで関わっていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子もたちとの交流が少ない。地域の公園や公共の場で地域の子との交流する機会はあるが、事業所に招いたり、地域の行事に事業所として参加する等は行っていません。	新型コロナウイルス感染症の流行があったから、地域の人たちを招くような活動や行事を積極的に行うことができていません。	今後も地域で出会う人には積極的に挨拶して交流しやすい関係作り而努力して行きます。また、雪かきや清掃などを通して、地域の方との交流をしていきます。
2			
3			